



晴和病院ニュース

晴和病院スタート号

Seiwa Hospital News 2025年9月2日

01

2025年
秋1号

新しい晴和病院は外苑東通りに「顔」を出しています。7層の正面ファサードは「複合：ミクストユース」を表しています。周辺の住環境に溶け込むようスケールに配慮した凸凹形状です。この形状は病室や居室空間の環境への建築的配慮の結果でもあります。機能・環境と形状は深い関係があるのですね。



晴和病院訪問その1 検査課

検査課 木村 真也

2025年4月より新生晴和病院での睡眠検査がスタートしました。検査エリアは1階外来フロアの一隅に大きく構えており、その中に睡眠検査室が5室あります。建設にあたり設計図作成の段階より関わらせて頂き、多種多様な睡眠疾患に対応できるように設備を整えました。晴和病院の睡眠診療の特徴は、精神疾患に併発する睡眠障害を診られることにあります。これはとても重要なことで、例えばうつ病に睡眠時無呼吸症が合併するケースにおいては、双方から病態をみれることで治療の選択肢が広がります。また、発達障害においても睡眠障害を有するケースが多いことが知られています。睡眠障害として一般的に知られている不眠症や先に述べた睡眠時無呼吸症の他に、睡眠障害診断基準書(睡眠障害国際分類第3版)に記載される睡眠疾患は70種を超えます。晴和病院の検査課では基本的にはこの全ての

睡眠疾患に対応する睡眠検査を実施しています。

代表的な睡眠検査である「終夜睡眠ポリグラフ検査」は、脳波や呼吸状態や各種筋電図など様々なセンサーを装着した状態で1晩寝ていただき、睡眠状態を全般的に把握します。他には、日中の過度な眠気を客観的に評価する「反復睡眠潜時検査」や「覚醒維持検査」「24時間睡眠ポリグラフ検査」なども行っており、様々な睡眠疾患の症状に対応が可能となっています。今後も晴和病院の検査課では、睡眠障害はもちろんのこと精神疾患に対する知識や理解をより深め「晴和病院で検査が受けられてよかった」と言って頂けるように日々精進してまいります。



P | 検査室は5室あります。トイレとシャワー付きもあります。



しっかりと実がつけました！



4か月でこんなに育ちました。
いざ、これから刈り入れ！



4月田植えをしました。水を絶やさないよう心掛けました。

お米、収穫出来ました！

4月21日にだんだんテラスで田植えをしました。そして、8月22日にみんなで稲刈りをしました。今年は記録的な猛暑で4階のテラスは照り返しで40度を超える過酷な環境でした。そんな中、「千葉産コシヒカリ」はしっかりと実をつけてくれました。小石川東京病院中庭での試験的「ボックス稲」は今年の収穫に大きく貢献しました。10月には玄米にして試食したいと思っています。

編集後記

4月1日に新病院がスタートして、早5か月が過ぎました。患者さん、メンバーさん、サポートいただいているスタッフのみなさま、新病院に少しずつ慣れていただいているように思います。

「みなさまの声」の中に施設が新しくなったこと、一方で旧病院のレトロな印象への懐かしさなどをいただいています。私たちも、旧病院の住宅的なスケールや日常生活、素材感を重視して新病院の設計をしています。加えて、患者さん目線に立った気配りや満足感を得られるよう心がけたいと思っています。

また、新たな展開としての「治す医療から、治し支える医療へ」の取り組みです。生活支援センター機能としてのおとな TOSCA、地域活動支援センター晴 Halu、これからの附設生活支援センター和 Nico です。加えて協働機能としての牛込柳町弁天眼科クリニック、牛込弁天内科クリニックやアイン薬局、また、アスファレス心理センター、日本精神衛生会などが加わります。これはとりもなおさず、創立時の臨床と研究と精神衛生の複合を受け継いだものといえます。「新たな複合」は都心における精神科医療の一つの取り組みとして、認知されるのではないのでしょうか。

企画室 南部谷 真



「内と外」の多目的スペースとしての の晴和ホールとだんだんテラス

晴和ホールとだんだんテラスは多目的に活用できる場所として機能しています。7月26日加藤ふみ子さん追悼コンサートを開催しました。多くの皆様にご参加いただきました。普段はデイケア、作業療法、また講演、会議などに広く活用されています。だんだんテラスは春にはハーブやイチゴ、秋にはなす、キュウリなどトライしています。入院療養中の患者さんから、稲刈り体験の感動の声をいただき、私たちもさらなる取り組みへの励みになっています。

